

博士学位論文審査要旨

2020年6月10日

論文題目：自閉スペクトラム症児の社会的スキルの測定に関する検討—Autism Social Skills Assessment for Parents (ASAP) の開発と心理社会的適応の関連—

学位申請者：中西 陽

審査委員：

主査：心理学研究科	教授 石川 信一
副査：心理学研究科	教授 杉若 弘子
副査：東京医療学院大学保健医療学部	准教授 岡島 純子

要旨：

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD) における社会性の向上を目的とした心理社会的介入の1つとして、社会的スキル訓練 (Social Skills Training: SST) がある。しかしながら、SST の主たる効果指標である社会的スキルについて、ASD児を対象として信頼性や妥当性が十分に確認された尺度は開発されていない。そこで、本論文では新たに ASD児の社会的スキルの測定に適した尺度として自閉スペクトラム症児のための社会的スキル尺度親評定版 (Autism Social Skills Assessment for Parents: ASAP) を開発することを目的とした。

研究1では、ASAPの項目群を既存の尺度や専門家の自由記述に基づいて作成し、ASD児 ($n=30$)、定型発達児 ($n=457$) のデータとともに項目反応理論による項目特性に基づき、識別力が高く難易度の低い20項目を選定した。その結果、ASAPは、社会的スキルの低い子どもたちの測定において高い情報量を有する尺度であることが確認された。また、内的整合性も十分に高い値が得られると共に、自閉症的特性との間に中程度の有意な負の相関が示された。

研究2では、ASAPの尺度特性の再現性を確認するために、新たな対象者に対して1ヶ月の間に二度の調査を行った。まず、1回目の調査で得られたデータ (ASD群: $n=34$ 、一般群: $n=272$) に基づいて、ASAPの因子分析を行ったところ、研究1と同様に ASAPは1因子構造であることが確認された。内的整合性も研究1と同等に高い値が示された。次に、2回目の調査で得られたデータを加えて (ASD群: $n=28$ 、一般群: $n=120$)、再検査信頼性と測定誤差について検討を行った結果、再検査信頼性は十分に高い値を示していた。

研究3では、ASAPと自閉的特性、抑うつ症状、友人関係の適応感を測定する尺度を用いて ASD児の社会的スキルを測定する意義、社会的妥当性について検討を行った。一般の小中学生とその保護者 (418組) からデータを収集し、ASAPが測定する概念の独自性について確認するため、階層的重回帰分析を行った。その結果、ASAPが測定する社会的スキルは、友人関係の適応感と抑うつ症状それぞれに対して、自閉症的特性とは異なる独自の説明力をもつ概念であることが示された。加えて、自閉症的特性と友人関係における適応感、および抑うつ症状の関連における社会的スキルの媒介効果を検証したところ、どちらにおいても社会的スキルの完全媒介が示された。

本論文は、ASD児の社会的スキルの測定尺度の未整備という課題に対して、複数の研究を積み重ねることで解決を試みた一連の研究報告である。臨床心理学分野の効果研究における測定指標の重要性を考慮すると、本研究が当該研究分野に果たす役割は大きい。

よって、本論文は、博士（心理学）（同志社大学）の学位を授与するにふさわしいものであると認められる。

総合試験結果の要旨

2020年6月10日

論文題目：自閉スペクトラム症児の社会的スキルの測定に関する検討—Autism Social Skills Assessment for Parents (ASAP) の開発と心理社会的適応の関連—

学位申請者：中西 陽

審査委員：

主査：心理学研究科 教授 石川 信一

副査：心理学研究科 教授 杉若 弘子

副査：東京医療学院大学保健医療学部 准教授 岡島 純子

要旨：

上記審査委員3名は、2020年6月10日19時30分から約1時間にわたり、学位申請者に面接試問を実施した。提出された論文に対する質疑に対して、適切な応答と説明がなされ、本論文の学術的な価値が確認された。また、臨床心理学はもとより、心理学全般についても十分な学力を有することが確認された。引き続き行った口頭試問による語学試験（英語）においても十分な語学力を有することが確認された。

以上より、総合試験の結果は合格であると認める。

博士学位論文要旨

論文題目：自閉スペクトラム症児の社会的スキルの測定に関する検討
—Autism Social Skills Assessment for Parents (ASAP) の開発と
心理社会的適応の関連—

氏名：中西 陽

要旨：

社会的コミュニケーションの障害を中核症状とする自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD) においては、学齢期に友人との関係における不適応感や不安や抑うつなどのメンタルヘルスの問題を抱えやすく、ASD 児の支援においてはこれらの問題を改善すること、あるいは予防することが求められる。ASD 児に対しては、従来から社会性の向上を目的とした社会的スキル訓練 (Social Skills Training: SST) が実施されており、社会的スキルの向上は友人関係の問題やメンタルヘルスの問題の改善や予防にも有効である可能性が示されてきた。しかしながら、SST の主たるアウトカムである社会的スキルの測定においては、ASD 児に対する信頼性や妥当性が十分に確認された尺度が利用されていなかった。そのため、SST の実施に伴う ASD 児の社会的スキルの向上が、友人関係やメンタルヘルスの問題の改善に対してどのような効果があるのか、詳細な検討が行われていなかった。

本論文では、第 1 章においてこれまでに実施してきた ASD 児を対象とした SST の介入研究とその中で利用されたアウトカム指標について概観した。本領域においては、様々な指標が利用されており、研究間で統一して利用される、いわゆるゴールドスタンダードと言えるような指標が特定されなかった。その中でも Social Skills Rating System (SSRS: Gresham & Elliott, 1990) と Social Responsiveness Scale (SRS: Constantino & Gruber, 2005) の 2 つの尺度は、複数の研究で利用されていることが確認されたが、SSRS は定型発達児を対象に作成された尺度であることから、ASD に欠如しやすいスキルを測定できていないといった構成概念の問題、また項目の難易度が高いために、ASD 児の行動の変化に対する検出力の弱さが指摘された。また、SRS は自閉症的特性 (ASD に特徴的に示される様々な問題) の重症度を測定する尺度であり、ASD のスクリーニングには有用であるが、SST でターゲットとなる行動の変化を詳細にアセスメントすることができないといった問題が指摘された。そこで、本論文では新たに ASD 児の社会的スキルの測定に適した尺度として自閉スペクトラム症児のための社会的スキル尺度親評定版 (Autism Social Skills Assessment for Parents: ASAP) を開発することを目的とした。

第 2 章では、本論文における研究課題として下記の 3 点を設定した。はじめに、社会的スキルが低い ASD 児の測定において、信頼性の高い尺度を構成するために、項目反応理論 (Item Response Theory: IRT) に基づいて、項目難易度の低い項目で構成した尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを課題とした。次に、健康関連のアウトカム指標の選択に関する国際的なガイドラインである COSMIN (COnsensus-based Standards for the selection of health Measurement INstruments) に基づいて、ASAP の尺度特性を検討することで臨床的有用性を高めることとした。最後に、ASAP を用いて ASD 児の社会的スキルを測定する意義や社会的妥当性について、(1) 自閉症的特性を測定する尺度との概念的弁別性、(2) ASD の二次的な問題である友人関係や抑うつの問題に対する予測性から検討することとした。

第 3 章では、はじめに ASAP の項目群を既存の社会的スキル尺度や専門家の自由記述に基づいて作成した。次に、その中から ASD 児を対象とした SST において、ターゲットとなりうる対人行動としての社会的スキルを専門家の評定によって選定した。続いて ASD 児 ($n = 30$)、

定型発達児 ($n = 457$) のデータをもとに IRT による項目特性（項目の識別力、難易度）を推定し、識別力が高く、難易度の低い 20 項目を選定した。そして、選定された 20 項目についてテスト情報量、内的整合性、構成概念妥当性の検討を行った。テスト情報量の結果は、ASAP が潜在的に社会的スキルの低い子どもの測定において、信頼性が高いこと示しており、内的整合性も十分に高い値が示された。また、構成概念妥当性は仮説検証によって検討し、自閉症の特性との関連による併存的妥当性では、中程度の有意な負の相関が示され、ASD 群と定型発達群の ASAP 得点の比較においては、ASD 児が定型発達児よりも有意に社会的スキルが低いことが示された。このように仮説通りの結果が得られたことから、ASAP は信頼性と妥当性を十分に備えた尺度であることが確認された。

第 4 章では、第 3 章の研究の対象者とは異なる対象者に対して新たに調査を行い、第 3 章で示された尺度特性の再現性を確認するとともに、COSMIN に基づいて、第 3 章では示されていなかった尺度特性（構造的妥当性、再検査信頼性、測定誤差）について追加検討を行った。第 4 章では、約 1 ヶ月の期間において 2 回の縦断調査を行った。まず 1 回目の調査で得られたデータ（ASD 群： $n = 34$ 、一般群： $n = 272$ ）に基づいて、ASAP の 1 因子構造を仮定した因子分析を行ったところ、仮説通り ASAP は 1 因子構造を示しており、構造的妥当性が確認された。また、内的整合性は、第 3 章と同等に高い値が示された。テスト情報量についても、社会的スキルが平均よりも低い子どもの測定において信頼性の高い尺度であることが再現されていた。次に、2 回目の調査で得られたデータを加えて（ASD 群： $n = 28$ 、一般群： $n = 120$ ）、COSMIN の信頼性領域に分類される再検査信頼性と測定誤差（Standard Error of Measurement: SEM）について検討を行った。その結果、再検査信頼性は十分に高い値を示していた。また同時に測定誤差と尺度が検出可能な最小限の値（Smallest Detectable Change: SDC）を算出した。これにより、対照群の設定が困難な臨床場面においても、介入前後の得点の変化を解釈することができる標準データが提供された。

第 5 章では、ASAP を用いて ASD 児の社会的スキルを測定する意義や社会的妥当性について検討を行った。はじめに、一般の小中学生とその保護者（418 組）からデータを収集し、自閉症の特性の程度（重症度）を測定する Autism Spectrum Screening Questionnaire (ASSQ 日本語版: 伊藤他, 2014) と ASAP の概念的独自性について検討するため、友人関係の適応感と抑うつ症状それぞれを目的変数とした階層的重回帰分析を行った。その結果、ASAP が測定する社会的スキルは、友人関係の適応感、抑うつ症状それぞれに対して、自閉症の特性とは異なる独自の説明力をもつことが確認された。加えて、自閉症の特性と友人関係における適応感、自閉症の特性と抑うつ症状の関連における社会的スキルの媒介効果を検証したところ、どちらにおいても社会的スキルの完全媒介が示された。これらの結果から、ASD 児あるいは自閉症の特性の高い子どもの心理社会的適応の問題に対しては、ASAP に示される社会的スキルを高めることが有効であることが示され、ASAP で ASD 児の社会的スキルを測定する意義が確認された。

第 6 章では、総合考察として本論文の意義と今後の課題について考察した。本論文は、IRT に基づいて社会的スキルの難易度に着目することで、社会的スキルが潜在的に低い ASD 児の測定において、信頼性と妥当性の高い尺度の開発に成功した。実証に基づくアセスメントにおいては、信頼性や妥当性に加えて、臨床的有用性の高さが求められる。ASAP は、項目の内容（測定するスキル）、項目数の少なさ、介入前後の得点変化に関する標準的データの提供、自閉症の特性を測定する尺度との独自性、心理社会的適応との関連など様々な観点から臨床的有用性の高さが評価できる尺度であり、子どもの問題の理解、介入計画の立案、介入経過のモニタリング、介入効果の検証など臨床場面での活用が期待できる尺度となった。今後の課題として、まずは ASD 児を対象とした SST において ASAP を利用し、尺度の反応性について検討することに加えて、知的能力との関連、子どもの発達段階を考慮した社会的スキルの測定、ASAP の対象者の拡張などについても検討していくことなどが議論された。

引用文献

- Constantino, J. N., & Gruber, C. P. (2005). *The Social Responsiveness Scale (SRS) manual*. Los Angeles: Western Psychological Services.
- Gresham, F. M. & Elliott, S. N. (1990). *Social skills rating system*. Circle Pines, MN: American Guidance Service.
- 伊藤 大幸・松本 かおり・高柳 伸哉・原田 新・大嶽 さと子・望月 直人 …辻井 正次 (2014). ASSQ 日本語版の心理測定学的特性の検証と短縮版の開発 心理学研究, 85, 304-312.